

東北森林管理局

森林技術・支援センター

たより

〒037-0305

青森県北津軽郡中泊町中里亀山540-8

TEL : 0173-57-2001

FAX : 0173-57-4929

E-mail : t_gijyutu_c@maff.go.jp

多雪寒冷地における大苗の特性について現地検討会



平成28年10月13日(木)に技術開発課題として設定したスギ大苗植栽試験地において、米代東部森林管理署上小阿仁支署主催の現地検討会が開催されました。この試験は、大苗による下刈省力の効果を検証していくのですが、多雪地における大苗は雪害による倒伏、根曲がり等が懸念されるため、管内でも有数の湿雪かつ多雪地である同支署に試験地を設定したものです。

秋田県林業研究研修センター、上小阿仁村役場から3名、総勢18名の参加を得て、当センターより試験の目的、調査内容等の説明を行い、上小阿仁支署職員の実演後、参加者にコンテナ苗大苗・普通苗の植栽をしていただきました。参加者からは「来年度、この試験地は下刈をするのか」等の質問が出るなど活発な意見交換が行われました。

今後、苗木の成長量、雪害の影響等の調査を行い、下刈省力等総合的な造林コスト低減について検証していきます。

青森県林業研究所と合同現地研修会

平成28年10月20日(木)～21日(金)に青森県林業研究所と当センターは米代東部森林管理署の協力のもと同署管内において合同現地研修会を実施しました。この合同研修会は、民有林、国有林双方の森林・林業に関する知識、技術の向上、研究ニーズ、情報の共有等を目的に平成26年度から開催しています。

今年度は当センターが幹事となり、森林を育成する段階から利用する段階に達したことから、木材の生産・利用をテーマに現地案内、説明を行いました。

一日目は製品生産事業実施箇所では伐倒・集材・造材・巻立作業を見学し現場代理人から効率的な作業システム等の説明をしていただきました。また収穫調査実施箇所では、収穫調査の説明及び演習と立木の評価方法の仕組み等の説明を行い、木製残存型枠を使用した治山ダム施工地を見学しました。

二日目は、秋田県北木材センターを訪問し代表理事、専務理事にご説明いただきました。同センターは委託市場の他に秋田杉集成材を生産しており、生産工程の説明とともに木材需給等についても詳しく説明をしていただきました。その後集成材を使い建築中の長木公民館、秋田杉大断面集成材を使用した大館樹海ドームを見学しました。各見学箇所では活発な質問、意見交換、情報収集等が行われ、大変有意義な研修会となりました。

各見学箇所に対応していただいた皆様に感謝いたします。



一貫作業システム現地検討会



平成28年10月27日(木)に岩手北部森林管理署の伐採造林一貫作業システム事業実施箇所である東北森林管理局、岩手北部森林管理署共催で現地検討会が開催されました。岩手県職員、市町村職員、林業事業者等の参加を得て総勢73名が参加しました。森林総合研究所東北支所天野森林資源グループ長から「一貫作業の効果と課題」と題し、多雪寒冷地である東北地方における下刈まで考慮した一貫作業システムの研究成果、モデルの提示、課題等の基調報告があり、東北森林管理局からは、これまでの取組状況についての報告がありました。

現地では、事業実行者から一貫作業システム、コンテナ苗植栽を実施してみた感想、意見が報告されました。その後様々な植栽器具を使ったコンテナ苗の植栽体験が行われました。

参加者からは、コンテナ苗を現地で保存できる期間、春植えと秋植えの適否等活発な意見交換が行われました。

なお、当該箇所は、技術開発課題「多雪寒冷地における大苗植栽の特性について」の試験地になっており、当センターから一貫作業システムで大苗を運搬した場合の植栽工期、下刈省力、雪害の影響等試験の目的、調査内容の説明を行いました。

森をさんぽ

増田です!



森林技術専門官
増田 悠介

草花は秋の装いに変わりつつありますが、秋の七草という言葉を知っていますか？春には春の七草があるように、秋には秋の七草が。

秋の七草は秋を代表する草花として、萩(ハギ)、ススキ、葛(クズ)、桔梗(キキョウ)、女郎花(オミナエシ)、撫子(カワラナデシコ)、藤袴(フジバカマ)が選ばれています。ただ残念なことに、現在この七草のうちいくつかは山野で見かけることは難しくなっており、キキョウは環境省のレッドデータブックに絶滅危惧Ⅱ類(VU)として記載され、フジバカマも準絶滅危惧(NT)に記載されています。秋の七草は草地に生え、昔は草地で藁をとったりして生息地である草地が保たれていましたが、今は人間の生活スタイルが化石燃料へのエネルギー利用の変化により草地が減少しています。秋の七草を見かけることが少なくなってしまったのは草地の減少が原因なのかも知れません。

秋の七草は警鐘を鳴らしているのかもしれない。人間の生活スタイルの変化が草花の行く末に影響を与えているということ。

秋の七草を見かけたら、そんなことを思い出してもらえれば、幸いです。



なかとまり町民文化祭

10月29日(土)町民文化祭が開催され、当センターから5名の職員が参加しました。今年も「樹木とのふれあいコーナー」や「製作コーナー」、パネル展などを通じて国有林や当センターに関するPRを行いました。



今年は「松ぼっくり」を使うクリスマスリースやツリー製作を企画しました。毎回好評の「名前をつける木ホルダー」は特に人気を博していました。このように、町民文化祭をきっかけに「国有林の仕事」や「森林の大切さ」について興味を持っていただければと思います。

編集後記

雪の舞い散る季節を迎え、津軽の厳しい冬がはじまります。前号で発信したとおり、どうにか11月中にもう一号発行できました。皆さん、今後の雪道走行には注意です!